

放課後等デイサービス やまっこクラブ 令和3年3月作成

事業者向け放課後等デイサービス自己評価表

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			活動中の安全を考慮し、グループを分けて活動を行う等適切なスペースの確保に努めている。また、定員超過にならないように利用予定を固定していただく等、保護者様にはご協力をお願いしている。
2	職員の配置数は適切であるか	○			基準上必要な職員数に加え、活動中や個別対応での支援が必要な場合に備えて、適切な支援が行える職員数を配置している。
3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		階段に手すりはないが、滑り止めマットを貼り、安全に昇降できるよう使用時には見守る等の配慮をしている。また、事故を未然に防ぐ観点からもクッションボールの設置等で安全配慮に努めている。
4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			事業計画会議を行い、振り返りと目標設定を行っている。また、業務改善会議・支援会議等の場を設ける事で、より多くの職員が意識的に仕事ができる環境作りに努めている。各職員が参画し易いように、個別面談の機会も設けている。
5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			前年度のアンケート結果から改善すべき点をまとめて改善に努めている。また、定期的な会議の場(業務改善会議・支援会議等)で、進行状況や改善点を確認し社内全体で取り組んでいる。
6	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			毎年アンケート結果を取りまとめたものを各保護者に配布し、HPでの公表も同時に行っている。
7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		支援については事例の報告会等を通して外部の指導や評価を受け、改善に努めた。今後も外部からの評価を真摯に受け止めて業務改善に繋げていきたい。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			コロナの影響で外部の研修に参加できなかったが、オンラインでの研修に参加した。また、職員全員が月に一度の内部研修に参加できるよう機会を設けて行っている。
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			モニタリング期間でアセスメントを行い、定期的に保護者面談を行う事でニーズを再度把握している。その上で、現在の様子や利用記録を元に職員間でケース会議を行い、放課後等デイサービス計画を作成している。
10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化させたアセスメントツールを使用しているか	○			太田ステージによる評価を活用した支援を行っている。今後も職員間での情報共有や外部研修に積極的に参加する事で適切なアセスメントができるように努めていきたい。
11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			それぞれの職員が担当別に活動を考え、昼礼等で話し合い内容をすり合わせてプログラムを決定している。
12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			その日の利用人数や個々の特性・心身の状態に配慮し、活動を決めている。また、個々の支援計画に合わせて活動のねらいや内容を変えている。
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日は主にチャレンジタイムと運動遊び・自立活動を行い、休日・長期休暇では運動遊び・自立活動に加えて自然学習や公園遊び等を行っている。また、個々の特性・心身の状態に配慮し、状況に応じて課題を変更することで負担がかかりすぎないようにしている。

14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			モニタリング、アセスメントを行い、個別での課題、集団での課題を検討し、放課後等デイサービス計画を作成している。
15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			朝礼・昼礼にて送迎・活動内容・支援内容の確認、また各職員のそれぞれの役割等を共通理解し支援に臨んでいる。
16	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか		○		打ち合わせという形はとっていないが、支援終了後には利用記録の記入や振り返り、気づいた点を話す時間を設けて職員間で情報の共有をしている。また、翌日の朝礼・昼礼でも話す時間を確保している。その日にいなかった職員への申し送り等は「申し送りノート」を活用する事により、全体で周知できる体制を整えている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			目標を事務所の見やすい所を書いておき、その目標に沿って記録を取っている。また、日々の支援内容や様子での“気づき”についても記録し、全体で利用状況を把握できるようにしている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			モニタリングの結果、日々の様子、ケース会議の結果を保護者様と面談した際に報告して見直しの必要性を判断している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			創作活動の面では、自然学習で五感を使ったり表現力を高めたりする事で、感性が豊かになる活動を行っている。地域交流の機会の提供の面では、現在はコロナの影響で地域のイベントには参加できていないが、少人数での買い物学習を行ったり、地域の図書館や児童センター等を利用した際に職員の方に挨拶をしたりと、社会経験の幅が広がる活動を行っている。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児童発達支援管理責任者が参加している。サービス担当者会議が行われる際は、事前に当該児童の様子や状態、支援の経過等を全体で共有できるようにしている。
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定などの交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			学校から下校時刻の分かる予定表をいただき、急な変更があった際には事業所に連絡をいただく等、密に連携を取っている。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		現在、医療ケアを必要とする利用児童はいない。受け入れる際には主治医との連絡体制を整える。
23	就学前に利用していた保育園や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所などとの間で情報共有と相互理解に努めているか		○		今年度は新一年生がいなかったため実績はないが、必要がある際には保護者に同意を得た上で、通っていた保育園や療育支援を受けていた施設へ連絡を取り、情報を共有する事としている。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所などへ移行する場合、それまでの支援内容などの情報を提供する等しているか		○		卒業生がいなかったため実績はないが、今後卒業生が出る際には保護者に同意を得た上で、情報提供を行う。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修をうけているか	○			コロナの影響で、今年は県の発達障害総合支援センターの主催する研修動画を視聴する等、オンラインで研修に参加した。今後も積極的に研修へ参加し、専門機関と連携して支援の資質向上に努めていきたい。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		コロナの影響で、地域のイベント等に参加して交流する事はできなかったが、児童館や学童が併設されている公園等で密にならない程度に関わって遊べる事もあった。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			コロナの影響で会議自体は中止となってしまったが、協議会へアンケート協力をする事で、取りまとめた情報を共有する事ができた。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時や連絡帳にて活動の様子や気になる事を伝えて情報を共有している。また、面談の際に目標を確認して情報を共有している。

29	保護者の対応力向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		事業所で行った支援で家庭でもできる等は共有できるよう伝えている。また、保護者向けの外部研修の紹介等を通して対応力向上を図る機会の情報提供を行っている。今後も家庭でもできる支援を検討して、保護者支援を行っていきたい。
30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		見学・体験を必ず行ってもらい、利用開始前に活動の様子や施設の環境を見ていただくと共に、契約時には運営規定や重要事項等の説明を行っている。
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		相談された内容は社内でも共有し、必要に応じて綿密に会議を行う事で支援に繋げている。
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		今年度は法人主体のイベント等を行っていないので実績はない。今後は開催する事でのメリット・デメリットを考え、慎重に検討していく。
33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		契約時に苦情に関する連絡体制を説明している。また、苦情があった際には適切に対応できる体制をとっている。
34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		月に一度発行している「やまっこだより」で活動の様子や翌月の予定を発信している。
35	個人情報に十分注意しているか	○		個人情報は鍵付きの書庫に保管し、写真等は契約の際に保護者の同意を得て使用している。また、写真は管理者が管理し、細心の注意を払っている。
36	障害のある子どもや保護者と意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		一人一人に合ったコミュニケーションの取り方を実施している。保護者とは送迎時や連絡帳、面談等で情報の共有をする事で、話しやすい環境作りにも努めている。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		地域住民を招待する行事は行った実績はないが、掲示板を設置し、施設概要や様子を掲示することで地域に開かれた事業運営を行っている。また、市の作品展への作品出展は、多くの人に事業所を知ってもらえる機会となった。
38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		各種マニュアルを策定し、契約時に保護者に伝えている。また、常に同じ場所で保管し、職員や保護者が閲覧できるように設置している。
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		児童と一緒に避難訓練を年2回以上実施している。また、職員間では防犯訓練や消火器の使い方・通報の仕方の確認も定期的に行っている。
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		県主催の研修に参加し、それを元に事業所内研修を実施する事で、全職員に周知している。
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		身体拘束の同意書を利用者の様子により個々に作成し、保護者に同意をいただいている。また、やむを得ず身体拘束を行った場合には管理者に報告し、保護者に対して身体拘束の状況等を報告する事を義務付けている。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		必要に応じて保護者と連携を取り、食べ物は持参した物を提供するか、事前に確認した物を提供する等の対応を行っている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハットがあった際には状況や改善点等を話し合い、報告書にまとめて職員全体で周知できる体制を整えている。報告書はファイルにまとめて事務所に保管している。